

船木 河村尚子はだいぶいろんなレパートリーをやるようになりましたね。もともとすごくいいものを持っている人なので、とても楽しみです。真嶋 トップパンホールで聴いたプロコフィエフがすごく良くて、それ以来注目しています。今回は《展覧会の絵》をどう弾いてくれるのでしょうか。菊池洋子もおすすですね。最近モーツァルトもモダンピアノで弾いていますが、フォルテピアノをきちんと勉強したうえでモダンピアノだから、すごく説得力がある。

船木 ステージ上での華やかさもいいですね。小山実稚恵は最近出た《シャコンヌ》のCDが大変良かった。真嶋 レパートリーがたくさんあって、でも浅く広くではなく、すべてに気を遣う。リハーサルもものすごく入念にやるし、例えば何日も前からピアノを見てそれから調律をどうするか決めたりする。信頼のできる人です。斎藤雅広は自分の役割をわかっていて、独自の切り口で聴衆に魅力を伝えられる人。もっと高く評価されるべきだと思います。佐藤卓史は浜コンで第3位に入りましたけど、ひよつとすると1位になるかなと思うくらいうまくいった。清水和音の集中した時のすさまじさは別格で



佐藤卓史



小山実稚恵

©Kazuo Matsuura



菊池洋子

©Marco Borggreve



三浦友理枝

©Yuji Hori



平井千絵

©Takashi Owaki



清水和音

©K.Miura

す。あと性格も楽しい人です。船木 好きな言葉が『柵からぼた餅』ですからね(笑)。真嶋 万能で音がきれいな、というのがアシケナージと共通しますね。船木 田部京子はクレバーで、方向性がしっかり定まっています。中川賢一は独特で、楽譜も分析的に読んでいます。真嶋 作曲家でもあるんですね。船木 そうです。レクチャーもものなど、独自のセールスポイントを持ってやっているとかがおもしろいです。真嶋 萩原麻未も非常に自分を持っていて、いいですね。真嶋・船木 平井千絵はいいと思います。真嶋 すごく研究熱心で、ちゃんと調べるし、指も回るし。船木 説得力がありますよね。真嶋 三浦友理枝、すごくいいと思う。この人も研究熱心で音楽に対して真面目だから、活動もきちつちりポイントを押さえてるし、アイディアもたくさん持っている。宮谷理香は、ショパンコンクール入賞からそろそろ20年。最近はずいぶん重厚でまた詩情が横溢する充実した演奏になっていますね。

音楽評論家対談
この秋冬、
注目の日本人
ピアニスト



船木篤也

真嶋雄大



小川典子

©S.Mitsuta



江崎昌子

©Yukio Kojima



東誠三

真嶋 東誠三は非常に真面目な音楽をするし、最近藝大で准教授として指導にも力を入れています。リズム感が抜群にいいんですよ。ベートーヴェンのピアノソナタ全集も充実しているし、また室内楽においても、バランスを熟慮しながらの緻密なアンサンブルが魅力ですね。シュベールのチクルスをやっている今川映美子、プーランクの2台ピアノの、共演する井上茜は今川の弟子さんですけど、前も聴いたんですがおもしろかった。船木 ヤマハ製ピアノの、ヤマハらしさを引き出す上原彰子。真嶋 このあいだモーツァルトの協奏曲を聴いたのですが、どうしてもチャイコフスキーやグイナミックなイメージで語られがちですが、僕は叙情的なものがいいと思っています。《四季》なんかいいんじゃないかな。江崎昌子はシヨパンがいいですね。きちんと舞曲を舞曲として演奏できる人です。船木 ポーランドで勉強されてますからね。小川典子のストラヴィンスキーの4手はとも興味深いですね。真嶋 僕はおすすです。音楽を音楽としてすごくいきいきと表現できる人。室内楽もいい。武満さんもすばらしい。